

米倉教公の週間為替市場見通し

5/8 日週号

ドル/円予想レンジ 111.75 - 114.50 円

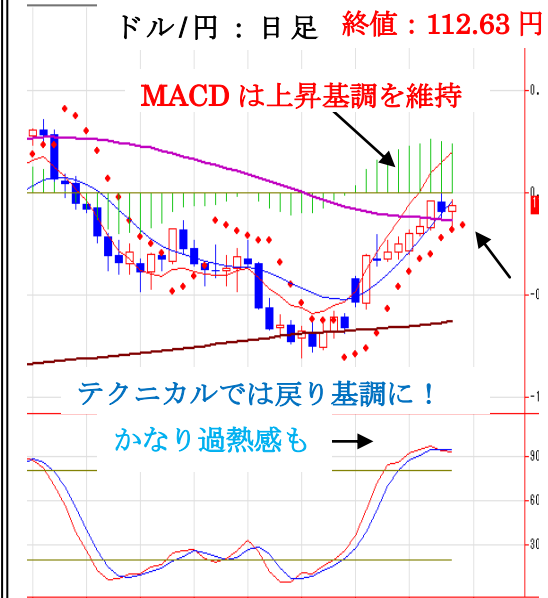
『仏・韓大統領選に注目、ドル高けん制に注意!』

■今週の市場動向：底堅い展開を継続!

前週のドル/円週足では、陽線となり26週線の113.09円が上値抵抗ラインとして意識されている。週明けは、予想を下回った米3月個人所得・個人消費支出、4月ISM製造業景況指数に失望したドル売り優勢で始まったが、ムニューシン米財務長官が『超長期債が米国にとり合理的』との見解に米長期金利が上昇し、ドル買いに拍車がかかった。2日は、米国が超長期債発行に踏み切るとの思惑を受けたドル買いが継続したが、その後は伸び悩む場面もあった。3日は、米4月ISM非製造業指数が強い結果だったことで再び買いが強まった。FOMCでは予想通り政策金利を据え置いたが、声明で『第1四半期の成長減速は一過性となる可能性が高い』との見解が示されると、米長期金利の上昇とともに買いが加速した。4日は、一時103.04円まで上げ幅を広げたが、113円台では本邦実需勢の売り注文が並ぶなか、一巡後は商品価格の下落を受けてクロス円が下げたことにつれて失速した。5日は、原油価格が下落を背景に一時112.09円まで下落したが、その後原油価格が持ち直したほか、良好な米4月雇用統計を受けて一時112.80円まで上昇した。

■来週の注目点：仏・韓国大統領選に注目、ドル高けん制発言には注意!

来週は、週明けの仏大統領選決選投票や、韓国大統領選に注目が集まる。仏大統領選ではマクロン候補が織り込まれつつあるが、大逆転でルペン候補が勝利するとリスク回避の動きにつながる。また、韓国大統領選では、北朝鮮の核実験が実施されるか注目される。本年の米国の利上げ軌道を探るためには、米4月小売売上高、生産者物価指数(PPI)、消費者物価指数(CPI)に注目が集まる。6月の利上げがほぼ織り込まれるなか、弱い結果となった場合には利上げに対する懐疑的な見方が浮上し、思わぬ米長期金利の低下やドル売りには注意が必要となる。上値目途は、4日高値の113.04円、26週線の113.09円、3月16日高値の113.56円、3月15日高値114.88円、下値目途は5日線の112.33円、1日の安値111.75円、10日線の111.63円となる。米国当局からのドル高・円安けん制発言などが短期的なリスク要因。



★今週の気になる出来事

仏大統領選では、マクロン候補の優勢が伝えられており、マクロ候補が大統領に当選しても、それが終わりの始まりとなる。マクロン候補の『前進』は議席をもっていない。また、以前に所属していた社会党は崩壊寸前である。そのため、議会には『ねじれ』状態となる。大統領が首相に多数党の党首を首相に任命しないと、議会は内閣不信任に訴えることが出来る一方で、大統領は議会の解散権を行使する。多数党との妥協点を見出さないと不信任と解散を繰り返すこととなる。仏の政治は機能停止となるリスクがある

■テクニカル的な見解：テクニカル的には戻り基調が継続!

シカゴIMM投機筋の4月25日付け対米ドルの差し引き持ち高は、円は前週の▲26,869から▲30,483へと売り持ちは前週から増加した。パラボリック(パラメータ:0.08、0.3)では、4月20日から買い転換。8日のSARは112.05円までの下落で売り転換となる。MACD(パラメータ:12、26、9)では、MACDとシグナルの乖離幅は拡大。ストキャスティクス・スロー(パラメータ:14、3、3、20、80)では、%K:92.93、%D:94.40と上昇基調を継続もやや過熱感が。75日線(紫線)を緩やかに低下傾向。200日線(茶線)は緩やかに上昇基調となってきた。ロウソク足は、前日ロウソク足に対しては上値・下値切り下げていることには注意が必要。大型連休明けとなり週前半は本邦実需の動き次第では上下に振れる可能性がある。連休中は113円台に本邦輸出勢のドル売りオーダーで上値を抑えられていた。

本レポートについての注意事項は巻末をご覧ください。必ずご確認ください。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 28 食産第 3988 号,経済産業省 20161108 商第 10 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。